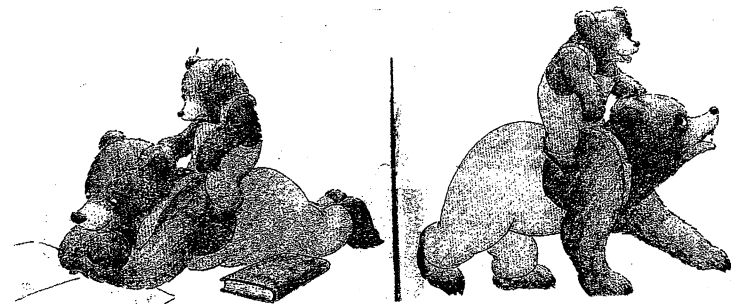


2月の園便り



26年 新潟青陵幼稚園 加藤由美子

“子ども”が“子ども”に伝える言葉はとても大きな影響を及ぼす・・・大人の言葉は、どんなに子どもの立場に立っていても、どんなに子どもの心に寄り添っていても、子どもの言葉ほど、子どもの心に深く染み入るものではないことを思います。子どもの下に立って初めて子どもを理解できると、私たちは、子どもの立場に立って子どもの思いを理解しようとしています。しかし、大人は所詮大人なのだ、子どもと横並びではないということをしばしば感じさせられます。

幼稚園バスの中で・・・気持ちが崩れてしまって、座席の手すりに体をもたせ掛けていたA君でした。添乗員は、危ないから起きて欲しいと伝えましたが、なかなかA君の心には届きませんでした。そこでケガをしては大変なので、添乗員がA君の体を支えようと足を一步踏み出そうとすると、突然B君が添乗員を制止するかのように出してストップの合図をしました。そして「大丈夫！ A君は自分で起きるから・・・先生、来なくていい・・・大丈夫！」と言ったそうです。添乗員は、B君の思いを大切に受けとめたいが、しかし、危険は防がなければならない、う～ん、どうしよう！！と迷いました・・・すると・・・A君が、やおら自分で起き上がったということでした。

また、ある日、友だちと一緒にやらなかったC君に対して「今度はC君もやろうよ、C君も仲間なんだからさ、C君もいないと淋しいよ」とD君が言ってくれました。

もちろん、D君の言葉はC君の心に染み入って、C君の心を動かしました。

“子ども”は“子ども”に言われた言葉には素直になれるし、その言葉を受けとめて頑張ることが出来るのですね。“子どもの言葉には子どもの心を動かす大きな力がある”ということに感動する日々です。

さて、では子どもたちが「君は自分でできる（僕は信じている）」とか、「君は仲間だよ」というメッセージを伝えられるようになるためには、どんなことが必要でしょうか。ここには重要な「模倣」ということが含まれています。私はこの子どもたちの言葉には、日々さまざまな状態の（プラスの状態の時もマイナスの状態の時も）子どもたちに対応している保育者の言葉や行動をよく見ていて、子どもたちはそれを心に取り込んで、自分の行動としているのだということを思っています。もちろん保育者のよくない言葉や行動も模倣することは重々承知していますから、子どもの周りにいる大人として、保育者は常に言葉を選んで使うこと、そして行動・行為を慎重にして行くことを大事にしていきたいと思います。大人の無意識の言葉や行動が、子どもたちにしっかりと取り込まれていく怖さを肝に銘じつつ・・・

26年2月の予定

日	曜	給食	降園時間	行 事
1	土	/	/	大学入試のため自由登園はお休みです。
2	日	/	/	
3	月	○	2:00	節分「豆まき」を行って、邪気を追い払います。
4	火	○	2:00	
5	水	○	2:00	
6	木	○	2:00	
7	金	○	2:00	
8	土	/	/	第2土曜日
9	日	/	/	
10	月	○	2:00	
11	火	/	/	建国記念日
12	水	○	2:00	
13	木	○	2:00	
14	金	○	2:00	
15	土	/	/	第4土曜日振替休日
16	日	/	/	
17	月	○	2:00	
18	火	○	2:00	
19	水	○	2:00	
20	木	○	2:00	
21	金	○	2:00	
22	土	×		のぼら劇場です。詳細につきましては各クラスのお便りをご覧ください。
23	日	/	/	
24	月	○	2:00	
25	火	○	2:00	
26	水	×	11:30	誕生会です。2月生まれさんの保護者の方、ご一緒にお祝いしましょう。
27	木	○	2:00	
28	金	○	2:00	